

2007年(平成19年)5月11日 金曜日

木質廃材の再生設備を受注

豊田通商は木質廃材を原料に、家具などの化粧板用台板を再生するパーテイクルボード生産設備を大倉工業から受注した。建築廃材の増加が見込まれる中、豊田通商は木質廃材ボード事業を有望な環境ビジネスとして位置づけており、その事業化第一弾。ライ

**豊田通商が
大倉工業から**

ンから出る木くずを無駄なくエネルギーに活用できる木くず焚きボイラの採用も大きな特徴という。他のボードメーカーにも設備の売り込みを強める。大倉工業の託工場（香川県三豊市）に納入する。受注金額は約40億円。新型設備の生産能力は月間1万

木くず焚きボイラを採用

8000ト。大倉工業では08年8月の引き渡しと同時に操業開始の予定。

木材機械コンサルタント会社であるサイメックス（浜松市）と共同で事業化とライン設計に取り組んだ。木質チップを高温・高圧の状態で板に成形する連続プレスには、ドイツのデイヘンパツハ社製を採用している。

全長40mのプレスは国内最長クラスで、ボードに高い強度を持たせることができる。このため、現行の化粧板用台板だけでなく廃木材を原料にした家屋の構造用パネル製造にも応用が可能。この分野で木くず焚きボイラの採用も国内初としており、資源と運搬費用の節約につながられる。